



なばり

2012年(平成24年) 2月5日発行

主な内容

- 2……排水設備指定工事店一覧、松明調進一般参加者募集
- 3……市政一新市民会議市民委員募集、国津の杜の行事
- 4……災害時要援護者支援制度のご案内

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

用語解説

【1次医療機関と2次医療機関】

比較的軽症の患者に対応するのが、かかりつけ医や応急診療所といった1次医療機関。入院や手術が必要な重症患者に対応するのが、名張市立病院などの2次医療機関です。病院勤務医不足の主な原因となっているのは医師の過重労働。これを軽減していくためにも、1次・2次医療機関の役割分担を進めることが重要です。

【地域医療支援病院】

紹介患者への医療提供、医療機器の共同利用などを通じて、かかりつけ医を支援する病院。患者紹介率や設備など一定の要件を満たす病院に対して、都道府県の医療審議会での審議を経て、知事が承認します。県内では、鈴鹿中央総合病院、松阪中央総合病院など5病院が承認を受けています。

「伊賀地域の医療体制を考える」



鈴木英敬知事と亀井利克市長による対談が、1月15日、武道交流館いきいきで開催され、約320人が傍聴に訪れました。テーマは、「伊賀地域の医療体制を考える」。1時間にわたって議論を交わしました。今号ではその要旨をお伝えします。

☎ 総合企画政策室 ☎ 63-7389 健康福祉政策室 ☎ 63-7579

■伊賀地域の医師不足は深刻

市長 地域医療は伊賀地域最大の課題となっています。医師不足が顕著なため、救急医療を担うことが難しくなっているのです。都市部に医師が集中しているほか、診療科目ごとに医師の偏りがあり、外科や内科、産科の医師数が少ないのが現状。いま、救急が維持されているのは、医師会や市民の皆さんの協力の下、1次・2次医療の役割分担が進み、また、市立病院などの医師や看護師が精一杯努力しているからだと言えます。

■知事 伊賀地域の皆さんからは、医療に対する不安の声が多く寄せられています。伊賀地域は県内でも10万人あたりの医師数が最も少なく、県内の公立病院では、伊賀地域の減少率が最も高いのも事実。県では、さまざまな医師確保対策に取り組んでいますが、特効薬はなく、地道に取り組んでいかなければならぬと考えています。

■研修医確保に県の支援を

市長 名張市立病院でも、医師の処遇改善や、医療機器の更新、医師の事務処理を手伝う「ドクタークラーク」の導入など、医師にとって魅力ある病院づくりを行うことで、医師を確保して

「知事と名張市長との1対1対談」を1月に開催

県と連携し、医療体制の充実を

いこうとしています。こうした中、研修医を受け入れることで、医師の定着を目指すこともできると考えますが、研修医の受け入れ病院に対する県の財政支援をいただきたいと思っています。

知事 現在、名張市立病院は、基幹型臨床研修病院(県内で17病院)の一つである三重大学医学部附属病院の協力型病院という位置づけですが、今後、県が直接支援できる方法がないかを検討します。

■地域医療支援病院の承認を

市長 今後、1次・2次医療の役割分担を確かなものとしていくためにも、名張市立病院は、「地域医療支援病院」の承認を受けたいと考えています。現在、名張市立病院を受診する患者のうち、地域の医療機関から紹介された人は承認基準である6割を超え、名張市立病院から地域の医療機関への紹介も基準の3割を超えています。さらに、県の財政支援があれば、この役割分担はもっと進んでいくと思います。

知事 「地域医療支援病院」として承認するためにはいくつかの要件がありますが、県はスムーズに承認を受けられるように支援していきます。また、1次・2次医療機関の役割分担の促進については、「地域連携診療計画」の作成も、かかりつけ医や市立病院への新たな支援につながりますので、これについても実現できるようにサポートしたいと思います。

■在宅医療の充実を

市長 医療費の増大から、国は、病院から在宅へ、施設から在宅へ、と在宅で療養できる体制の整備を進めています。市でも、在宅ケアを望んでいる人が多いので、在宅医療をもっと充実させていきたいと考えています。

知事 「名張市在宅医療支援センター」は、全国的にも先進的な取り組みです。これをより充実させるため、名張市とともに国に働きかけていきます。また、複数の診療科に対応できる家庭医を育成していくために、三重大学など関連機関が連携して取り組む「三重・地域家庭医療ネットワーク」の構築を支援していくと考えています。その一方で、医師確保の総合窓口をつくったり、いま増えている女性医師が子育てしやすい環境を整えたりと、医師不足解消に向けて、皆さんと知恵を出し合いながら、全力で取り組んでいきます。